

# 「人口減少時代の地域づくりにむけた生涯学習の推進」

第14期北海道生涯学習審議会


## 【1 審議のテーマについて】

【北海道が直面する様々な課題】

少子・高齢化 人口減少 過疎化 地域経済の縮小 地域の担い手の減少 大規模自然災害 など

— テーマ設定のポイント —

- 今後、より多様化する課題に向き合いながら、住民一人一人がより豊かな人生を送ることのできる地域づくりを進めるため、行政のみならず、NPO・企業や大学、団体、住民など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが重要
- 人々が、生涯を通して仲間とつながりながら楽しく学び、その成果を地域社会で生かすことで、生きがいづくりや、人生の可能性を広げる新たなステージで活躍するサイクルを実現
- 「サービスの提供者（行政）、享受者（住民）」という画一的な役割区分ではなく、行政と地域の協働による地域づくりを進める環境への期待


**地域創生に向けた地域づくりのための担い手の育成など、これからの生涯学習のあり方について検討を深めることが重要**

**審議のテーマ：「人口減少時代の地域づくりにむけた生涯学習の推進」**

— 審議のポイント —

<p>「道民の学びを行動につなげる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、住民の二分論からの脱却</li> </ul>	<p>「子どもたちの学びを広げ、支える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちも大人も学び合い、支え合う体制の整備</li> </ul>	<p>「地域の良さや課題を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びへの機運の醸成</li> </ul>
--	---	---

## 【2 北海道の近年の生涯学習の状況】

□北海道の人口動態及び社会動態（転入者－転出者）

- ・全国を上回るスピードで人口が減少しており、年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加
- ・若年層の東京圏への転出超過が続き、道内においては外国人の転入、札幌市への人口集中が進む

□生涯学習に関する道民の意識調査

- ・住民の地域活動への意欲を実際の行動に結び付けることが、生涯学習の成果を活用して地域活動を行う住民を増やすことにつながるため、意欲を行動に結び付けるきっかけとなる仕掛け・仕組みづくりが重要
- ・今後、生涯学習に取り組む住民を増やしていくためには、取り組めなかった理由を詳細に分析し、地域活動や学習への意欲を高めていくことが必要

□道内各市町村の生涯学習に関する課題意識

- ・住民の意識やニーズの把握、住民に対する普及・啓発、指導者やリーダー的人材の育成などが課題と認識
- ・住民の課題意識の低い分野については、取り組みやすい内容や学習方法を工夫して提供することが必要

□市町村の人口動態による学習機会の格差

- ・人口増の市町村は、生涯学習に関する関心が高い傾向にあり、これらの地域の取組が地域づくりの担い手育成の手がかりになることを期待

□世代による生涯学習の取組状況

- ・生涯学習の生かし方について、20代～50代は「仕事や職業」に生かしている割合が他の年代と比較して高く、「まちづくりやボランティア」「子どもたちを育むための活動」などは、各年代とも低い割合

### 【 3 北海道の生涯学習の推進について 】

今後は、生活や社会の在り方がさらに大きく変化することが予想され、**変化に対応する力を一人一人が身に付けるために、地域の学習活動を充実させ、生涯学習社会の実現に向けてこれまでの取組の着実な推進と、時代の変化を捉えた新たな取組を生み出していくことが重要**

#### 道民の学びが行動につながる環境づくり

- より多様で複雑化する課題を克服し、住民が豊かな人生を送ることのできる持続可能な地域づくりを進めるためには、生涯学習を通じた学びを活用することにより、行政とともに住民自らが担い手として地域活動に主体的に関わっていくことが重要

- ・ 行動につながる土壌づくり
- ・ 現役世代の生涯学習と地域活動
- ・ CSR（企業の社会的責任）と生涯学習
- ・ コーディネーターの重要性

#### 子どもたちの学びを広げ、支える

- 意図的に地域の子どもたちと、地域の大人がかかわる場を設定することが重要であり、子どもたちの学びを支える地域の大人の存在が不可欠

- ・ 乳児期からの自己肯定感、自己有用感の涵養
- ・ 学齢期（小・中学生）、高校生、大学生等の発達段階に応じた支援
- ・ 高齢者と子どもたちがお互いに学び合う関係
- ・ 親子での生涯学習・親育ちへの支援

#### 地域の良さや課題を学ぶ

- 安心して住み続けられる持続可能な地域を創るためには、活力のある地域づくりが重要であり生涯学習を通じた学びは、その基盤になる
- 地域の良さを生かした地域ならではの学びを通じて、新たな地域の課題を発見し、解決方法を考え、実践していく一連の地域活動を通して、地域の担い手が生まれ、学びと地域活動の循環が生まれていくことを期待

- ・ 防災・減災を柱とした学びや地域づくり
- ・ 様々な地域の良さや課題に対応した生涯学習の推進

#### 既存の取組を活用した生涯学習の推進

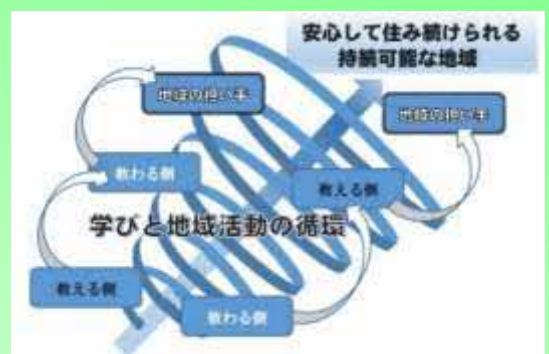
- これまでの学びや地域活動を通じて身に付けた知識・技能や経験を、地域社会で生かしている既存の団体や取組との連携・協働を推進していくことで、ノウハウを生かした学びと地域活動の循環をさらに充実させ、多くの住民の参加と主体的な地域活動への広がり、さらには地域づくりの担い手へ発展することを期待

- ・ 町内会・自治会、地域サークル等と行政との協働
- ・ 自治体間・他部局間の連携
- ・ 学校を核とした地域活動へのきっかけづくり
- ・ 行政と民間の役割と連携

### 【 4 まとめ 】

- 持続可能な地域づくりを進めていくためには、行政＝サービスを提供する側、住民＝サービスを受取る側、という画一的な役割分担ではなく、行政と住民、NPO・企業等が当事者意識を持ち、地域課題に対して両輪となって、「新しい公共」の考え方のもと、主体的に取り組むことが重要

- これからの生涯学習では、それぞれの主体が地域の課題や良さに対して、知識・技能の教授や受動的な学習にとどまらず、「教える側が教わる側に」、「教わる側が教える側に」なるなど、学び合いを活性化させ、より多くの学習者が学んだ成果を地域活動や子どもたちの学びに生かす「学び合いのスパイラル」の仕組みを進めていくことが肝要



— 「学び合いのスパイラル」のイメージ —